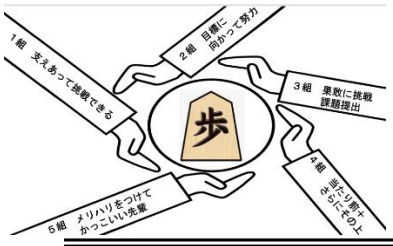

～一歩ずつ確実に～

豊橋市立羽田中学校
第２学年
学年通信　No, 10
令和４年６月 24 日発行

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

６月２１日（火）に「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」と題した，出前講座をオンライン形式で行いました。（株）ファーストリテイリングのかたを講師とし，ＳＤＧｓに関わる内容を，クイズを基にしながら話していただきました。難民とはどういうものか，「服のチカラ」には何があるのか，そして，ＵＮＨＣＲ（国連難民高等弁務官事務所）などと協力し，難民へ服を届けていることを教えてもらいました。今後，２年生の総合的な学習の活動として，難民へ届ける服の回収を行っていきます。自分たちの活動が，国連の活動に協力していること，難民を助けることにつながります。よりよい活動へとつなげていけたらよいと思います。

・難民の人たちが服を着て喜んでいる姿を見ると，「服のチカラ」を感じました。服は肌を守ったり，防寒だけでなく，自分の個性を見せたり，人を喜ばせたりすることができるとわかりました。僕には弟がいるため，僕の使っていた昔の服は，弟が使っています。弟が使い終われば，難民にその服を届けられたらいいなと思います。
・服は命を守ってくれるものだと学びました。また，自分の個性を表現できることも学びました。世界には難民の人が日本の人口の半数以上いることを聞き，同じ地球に住んでいるのに，生活に差があるのは深刻な問題だと感じました。
・「服のチカラ」で，自分の個性を表すことがわかりました。寄付された服を一つ一つ丁寧にたたみ，それを難民に届けているのはすごいとおもいました。服をもらった難民の人がとてもうれしそうだったのが印象に残っています。自分も着なくなった服を寄付したいです。
・授業を受け，服をリメイクするのもよいけれど，難民のかたたちに寄付をするのもよいとおもいました。今の時代，フリマアプリがあるけれど，小さくなった服や，着なくなった服をユニクロやＧＵに持っていきたいです。
・突然今までの生活ができなくなり，難民になるのはとてもつらくて大変なことだとわかりました。服には，命を守る役割と自分の個性を表す役割があると知りました。いろいろな人たちが関わり，難民の人たちに服が届くので，多くの人の協力によって寄付が成り立つのだとわかりました。私も，服を捨てるのではなく，寄付をし，無駄にしないようにしたいと思いました。
・ユニクロとＧＵで服を寄付できることを知っている人が少ないと思うので，地域の人に伝えたり，親戚や身近な人に伝えたりしたいと思いました。
・「服のチカラ」の大きさを知りました。難民の人たちも私と同じ人間で，好きで難民になっているわけでもなく，おしゃれも楽しみたいと思っていることを知りました。ＵＮＨＣＲやユニクロが，難民との懸け橋になっていることを知り，私も，着なくなった服が多いので，捨てずに大切に着てくれる人にあげたいと思いました。

今後，生徒たちがどのようにこの活動に関わっていくのかを話し合い，行動していきます。ご協力をお願いすることもあるかと思いますので，よろしくお願いいたします。